

(別記様式)

平成31年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）・ 実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様で組織的な教育活動を個に応じた展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした教育活動を展開する。</p>	<p>本年度、本校は「人間力ある人づくり」を目指して教育活動に取り組んできた。多くの生徒は積極的に授業や学校行事に取り組み、学力の向上や自主性、創造力を培うといった点で成果を上げた。</p> <p>進路決定状況では、就職において今年度も内定率100%を達成するとともに、進学においては国公立大学合格者が一昨年度の0名、昨年度の1名から本年度4名と大きく増加した。また工業に関する専門学科で、ものづくりコンテストの全国大会で金賞を取る生徒が出るなど、すばらしい結果を残した。その一方で日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、途中、学習に対する意欲をなくす生徒も一部出てきて、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。また私立大学の合格者絞り込みの影響もあり、私立大学合格者数は伸び悩んだ。</p> <p>部活動においては、陸上競技部とウエイトリフティング部が全国大会に出場、文化系部活動においても自動車部の全国大会優勝を始め、機械工作部や美術部などが全国の大会やコンクールで活躍するなど大きな成果が見られた。ただ、部活動加入率が減少傾向にある。いろいろな機会を使って部活動の意義について理解させることが必要である。</p> <p>また本年度、京田辺市と連携協力に関する協定を締結した。その結果、工業に関する専門学科の地元企業での体験等の事業を実施することができ、職業観の育成を図ることに大きな成果があった。また、市民文化祭への参加など文化系部活動の発表の場の増加による部活動の活性化にも繋がった。</p>	<p>1 基本的な生活習慣を確立させるとともに、高い規範意識を持った、規律ある生徒の育成に努める。</p> <p>2 組織的なきめ細かな取組により、原級留置、中途退学、転学等による進路変更の生徒数を減少させる。</p> <p>3 ICT活用の研究を進める等、魅力ある授業を展開し、活用生徒一人ひとりの学習意欲を喚起する。また、個に応じた指導により学力を伸ばす取組を充実させ、確かな学力を育む。</p> <p>4 国立教育研究所の教育課程研究指定校事業を実施する中で、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進する。</p> <p>5 文部科学省の人権教育研究推進事業により、「共生社会の実現を目指した、生徒への支援と生徒の相互理解～人権の視点でつながる学級づくりから」をテーマに研究を行い、共生社会の実現に向けて積極的に社会へ参加し、協働できる人材育成を推進する。</p> <p>6 「人間力の育成」に係る大きな側面である部活動、特別活動、自主活動をより一層推進する。</p> <p>7 地域と連携し、地域創生に寄与する取組を推進する。</p> <p>8 本校教育活動の保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>9 上記の8項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。 適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。		
		普通科・工業科の特色化の推進と広報活動の充実	普通科・工業科の教育内容の改善と充実に努め、地域や地元企業との連携をより一層進める。また、中学生が入学したいと思う学校となるように広報活動を充実させる。		
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に関与しこれを実行		
	文書情報 管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報保護を意識した情報管理の実行		
	修学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介（掲示・ホームページ） 各種奨学制度の紹介（掲示・ホームページ）		
	維持管理 及び学校 環境の整 備	安心・安全のための施設管理、学習環境の充実に向けた施設・設備並びに備品の整備	施設設備の定期的はもとより、老朽化や緊急性を踏まえた効果の高い改善対策の検討と実行 関係教科・分掌と連携し、必要な備品の充実に向けた対策の検討と実行		
	財務及び 会計	効率的な予算執行と適切な会計処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保 職員相互のチェック・確認体制の定着化		
教 務 部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考查を適切に計画し、円滑に実施する。 生徒向けの授業評価アンケートを改訂・実施し、授業改善に役立てる。 公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 「授業を考える週間」の実施方法と内容の改善を図る。 成績不振生徒の状況を常に把握するとともに、教務部として適宜面談にも加わり早期改善を図る。		
	各種会議	教務部関連会議の改善	教科主任会議、入学選抜者会議、教育課程会議の内容を充実し、精選する。		
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、成績処理及び個人成績票発送の適切な管理を図る。		
生	生徒指導	基本的な生活習慣、学習態度を確立させる指導の充	身だしなみの指導等において全教職員が一致した指導を実施する。		

徒 指 導 部		実	生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。 (携帯電話による授業妨害を減らす) 問題行動の未然防止を図るため、各分掌、教科と連携する。				
	特別活動	自主性、自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。 部活動を活性化させる。 生徒会・ボランティア活動を活性化させる。				
進 路 指 導 部	進路指導	希望進路の実現	生徒一人ひとりの学習意欲を喚起するとともに、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。 年間の補講実施を8回以上を目標とする。 系統的な進路指導となるよう、指導の内容について見直すべきものを1項目以上の改善・整理していく。				
		保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する。				
保 健 部	健康・安全教育の推進	健康な心身の育成を図る。	健康診断を全項目受検させ、「ほけんだより」を毎月発行する。 相談活動(カウンセリングを含む)や来室生徒への保健指導を適切に実施する。 特別支援教育会議を定期的に関催し、特別支援教育の視点を生かした指導を推進する。				
		校内美化に対する啓発を促進する。	日常の清掃活動が円滑に行えるよう各学期に一回、掃除道具の整備・補充を行う。 クリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。 毎日のゴミ捨てを推進し、ゴミ減量への啓発を行う。				
図 書 部	学習指導	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	新入生対象の図書館オリエンテーションをゴールデンウィークまでに実施する。 購入図書および各種資料の適切な選定を行う。 新着図書の紹介や校内展示、掲示など読書活動推進に向けた広報を積極的に行う。 図書館が生徒の『心の居場所』として機能できるように適切な環境・雰囲気作りに努める。				
	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞の実施(演劇)				

総務・人権教育	広報	中高連携と広報活動を充実する。	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や施設見学等を再編し実施する。 各教員が制作したホームページをより有効に利用できる体制を整え、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。			
	人権教育	人権意識の高揚及び実践的態度の育成を通して、人間力の充実を図る。	生徒の人権学習の深化と定着を目的に、外部講師による講演を実施する。 昨年度より実施している人権教育研究推進事業を学校体制として取り組む。			
工業部	工業教育の充実と発展	学科間専門科目の学習内容の充実を図ると同時に、各種資格等の取得率向上を目指す	具体的な教育内容精査、より効果的な実施方法、指導者側の有用な指導体制等について検討を進める。 問題解決型学習（PBL）の研究に向け工学探究科を中心とし工業4学科で積極的に取り組む 資格取得や検定の合格に向け、講習会等のより効果的な指導方法を検討するとともに、計画的に実施する。また、各種競技会に向けた指導の充実とその体制を整備する。			
		大学や企業などにおける、実際の技術・研究に触れる機会を企画する	大学や企業の見学会及びインターンシップなどを企画・立案・実施する。 外部技術者による講演や実技指導等を計画的に実施する。			
第1学年部	学習指導 進路指導	主体性のある学習態度を育成し、進路実現に向けた基礎学力の定着を図る。	日常の学習の重要性を認識させ、学習時間数前年度比50%増加を目指す。 学習環境の整備のために、教科担当者との連携を図り情報を共有する。それに基づいた生徒への対応と家庭との連絡を行う。			
	生徒指導 特別活動	規則を守るとともに、自主・自立の態度を育成する。	規則遵守のため一致した指導・対応を教員が行い、指導件数の前年度比20%減少を目指す。 委員会活動、行事等の役割及び清掃活動などに積極的に参加し、役割を果たさせる。			
		配慮を要する生徒への支援に取り組む。	合理的かつ公平性を保ち、関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密にする。			
	進路学習 指導	希望進路の実現に向け、具体的な取り組みをさせる。 進路目標が明確でない生	ホームルームや補講などを通して、具体的な対応方法を理解させ、実践させる。 進路指導部と連携をとりながら、身近な目標から			

第2学年部		徒には具体的な目標を持たせる。 今年度の追認考査により、全て認定させる。 本校への登校意欲を高めることにより、進路変更をする生徒をなくす。	考えさせる。 追認担当教諭と連携を密にする。指導に感じない場合は迅速に対応する。 体験的な取組に積極的に参加させ、進路目標を明確にさせる。			
	生徒指導特別活動	研修旅行を初め、学校行事を個々の特性に応じて参加させる。 携帯電話に関わる特別指導を昨年度から半減させる。 遅刻、早退する生徒を減らす。 清掃をしっかりとさせるとともに、ゴミの放置を許さない美化意識を養う。	学校行事に参加しにくい生徒には、面談等を実施し、学年団で連携を取りながら対応を進めていく。 携帯電話に付随する弊害を、日頃から一層意識させる。 無断早退については、面談を実施する。連絡のない遅刻についても回数に応じて面談を実施する。 担当教諭と連携をとり、清掃活動に取り組まなければ厳しく対応をする。また、ホームルーム等を通して、学校を汚さない意識を持てるように育てていく。			
第3学年部	学習指導進路指導	卒業に向けた取組を推進する。 希望進路を実現させる。	追認考査に重点を置き、二次追認までに合格させる。進学補講や検定講習等に積極的に参加させる。 生徒及び保護者との連携を密にし、適正な進路指導の充実を図る。			
	生徒指導特別活動	規範意識を高め、規律ある学校生活を送らせる。 計画的、積極的に学校行事や特別活動に取り組ませる。	指導の中で、特に規範意識を高める指導をする。 特別指導 昨年度比 50%減:A 30%減:B 微減:C 増加:D 学校行事全般において、他学年の範となる活動をする。 進路実現の取り組みと学校行事や部活動を両立させ、計画的かつ積極的に取り組ませる。			

評価

- A：十分達成できている（目標以上の成果があった）
- B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）
- C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）
- D：達成できていない（成果がなかった）